

2020年5月13日

蝶理株式会社

代表取締役社長 先濱 一夫 殿

株式会社ストラテジックキャピタル  
代表取締役 丸木 強



### 貴社の株主名簿閲覧謄写請求への対応について

例年、弊社が投資先企業に株主提案を行った場合は、株主名簿の閲覧・謄写請求をしております。貴社には、弊社が訪問して株主名簿のコピーを受け取るという形でご対応いただいたことがあります。

本年4月27日、貴社は株主名簿のコピーを弊社に郵送することを了承していただきました。しかし、株主名簿のコピーが弊社に届かなかったため、同年5月11日に弊社が照会したところ、貴社は「方針転換にてご面倒をお掛けしますが（略）ご来社頂き株主名簿の閲覧・謄写にてご対応頂きたい」との回答をされました。

弊社は、現在テレワーク中で貴社を訪問することができず、郵送していただけない以上は株主名簿を取得することはできません。弊社としては、貴社の株主に対し弊社の株主提案を説明する書面等の発送は断念せざるを得ませんでした。

このような対応は貴社の親会社の東レと同じです。弊社は東レに対して「特に現在のような緊急事態宣言期間中において、貴社（東レ）が上記のような対応を取られたのは、社会的に見て非常識というだけでなく、株主を軽んじるものであり、上場企業としての責務を放棄するものと評価せざるを得ません。」という意見を5月1日付の書面にてお伝えしましたが、貴社にも同じことを申し上げます。

そして、もし一度は了承いただいた株主名簿の郵送という方針が、東レと同じ対応とするために自主的に転換されたのであれば、これは明らかに無用な忖度です。また、仮に東レからの圧力や指示によって貴社の対応方針が変わったのであれば、貴社の経営の独立性が確保されているとは言い難く、貴社は親会社の言いなりになる子会社であり、まさに親子上場の弊害の具現化した事例と言えます。

親子揃って、株主名簿の閲覧謄写請求を行った株主に対して、このような嫌がらせとしか思われられない行動を取られたことは、大変残念であります。

以上